

令和7年度(2025年度)学校評価(自己評価書)

北海道小樽未来創造高等学校定時制

1 本年度の学校教育目標

- (1) 自立心、倫理観、規範意識、社会性の涵養
- (2) 健康・安全、協働・敬愛の精神の醸成
- (3) 専門的な知識や技術、実践力、想像力の育成

2 本年度の経営方針

- (1) 全教職員の共通理解に基づく協働体制を確立する
- (2) 生徒を理解し、実態に即した指導を行う
- (3) 組織的な研修を推進し、学校課題の解決を目指す
- (4) 教育環境を整え、施設設備の充実を図る

3 自己評価結果

(評価基準 A:十分である=4以上、B:おおむね十分である=3.5以上、C:不十分である3.5未満、D:改善を要する=3未満)

分野・領域	評価項目	達成状況	職員自己評価	取組の適切さ	職員自己評価	評価の理由・意見・改善の方策
教育目標	学校教育目標等について教職員間の共通理解が図られている。	C	3.42 (4.08)	C	3.42 (4.20)	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく人が入れ替わったことにより、年度当初は認識のずれが見られることもあった。 ・職員会議等を利用し、学校教育目標について再確認する。
	学校教育目標の実現に向け、積極的に取り組んでいる。	B	3.50 (4.25)	B	3.50 (4.30)	
学習指導	授業時数の確保に努め、学習の質が保障されたか。	B	3.58 (4.67)	B	3.67 (4.70)	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用に関する研修が十分に行えなかった。 ・定期考査に関するアンケートは、教員、生徒それぞれ複数回実施することができたことは良かった。 ・一人一人の能力に応じた「個別最適な学び」を行っている授業も見られた。 ・ICTの活用には個人差があり、今後もっと推進する必要がある。 ・観点別評価については、まだ確立しているとは言えない。 ・授業時数については、十分すぎるほど確保することができた。
	観点別評価が確立され、授業改善に繋がったか。	C	3.00 (3.58)	C	3.17 (4.00)	
	取得した知識・技能の質と量が、シラバスと照らして十分であったか。	C	3.42 (4.17)	C	3.42 (4.10)	
	学習への内発的動機付けに工夫を凝らした授業改善がされたか。	B	3.50 (4.17)	B	3.50 (4.20)	
	ICTを利用して深い学びに繋がる研修等ができたか。	D	2.92 (3.92)	D	2.92 (4.20)	
	思考・判断・表現力が育成されたか。	C	3.25 (4.17)	C	3.25 (4.20)	
	社会人としての基礎的能力・態度が身についたか。	C	3.08 (3.67)	C	3.17 (4.00)	
生徒指導	基本的生活習慣に係る統一した指導が適切に行われ、倫理観や公共の精神が生徒に育っているか。	C	3.25 (4.00)	C	3.25 (4.20)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事においては、生徒の積極性が見られた。 ・玄関指導を全教職員が行うことで、生徒の様子を把握することができ、共有を図れた。 ・ピアサポートや思春期講話等の実施により、他者との関わりについて学習することができた。 ・避難訓練は夏季と冬季に実施したが、どちらも滞りなくできた。 ・いじめや生徒指導事故が0だったことは良かった。
	他を思いやり、命の尊さを理解させることができたか。	B	3.58 (4.50)	B	3.58 (4.60)	
	生徒に積極的に関わることができたか。	B	3.67 (4.42)	B	3.67 (4.50)	
	生徒会活動やHR活動、学校行事活動の能力が向上されたか。	B	3.67 (4.45)	B	3.67 (4.67)	
	「いじめ」に関して日常的にその予防や早期発見に努めたか。	B	3.75 (4.75)	B	3.75 (4.80)	
進路指導	職業観の育成指導を通し、自立に必要な資質が育成されたか。	C	3.00 (4.08)	C	3.00 (4.11)	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校で他者と関わっていない生徒がほとんどのため、まず社会性を身に付けさせることが必要であると痛感した。 ・ハローワークとの連携はしっかりとできたように感じた。 ・個々に応じたきめ細かな進路指導ができたと感じている。 ・将来のビジョンを考えさせる教育がさらに必要だと思う。
	希望に応じた進路指導に取り組めたか。	C	3.00 (3.91)	C	3.00 (4.11)	
	生徒との意思疎通が図られたか。	C	3.33 (4.09)	C	3.33 (4.33)	
	地域事業所と連携が深められたか。	D	2.83 (3.36)	D	2.83 (3.92)	

健康安全指導	面談等を通して生徒理解が進んだか。	B	3.67 (4.42)	B	3.67 (4.60)	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員による教育相談はとても効果的であったと思う。 スクールカウンセラーとの連携はとても良好であった。 養護教諭と担任、管理職間での情報共有が図れた。
	健康保持増進の意識が高められたか。	C	3.33 (4.00)	C	3.33 (4.44)	
	環境美化・衛生意識を向上させられたか。	C	3.33 (4.00)	B	3.50 (4.44)	
信頼される学校づくり	教育活動のねらいや内容、成果等について効果的に伝えることができたか。	C	3.33 (4.25)	C	3.33 (4.40)	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員で中学校訪問を実施できたことは大変良かった。 中学校による本校への関心が薄い。まったく興味を示していない様子がかがえた。 学校体験入学会は盛況であったが、受検生確保に結び付かず残念であった。
	地域への広報活動に取り組んだか。	B	3.58 (4.00)	B	3.58 (4.44)	
	地域の学校理解は深まったか。	D	2.92 (3.64)	C	3.08 (3.56)	
	教育計画・重点目標の達成状況が適切に評価され、評価結果に基づく学校改善がなされたか。	C	3.25 (3.82)	C	3.25 (3.78)	
組織運営の活性化	分掌の目標は十分達成されたか。	B	3.50 (3.92)	B	3.50 (3.90)	<ul style="list-style-type: none"> 2つの分掌が連携を図りつつ、うまく機能させることができた。 解消されてきてはいるが、やはり特定の先生に業務が集中する。 学校行事等では、全員で協力し行事を成功させようとする意気込みが見られた。
	分掌間における連携は十分図れたか。	B	3.50 (4.00)	B	3.50 (4.20)	
	課題の解決に向けた取り組みが行われたか。	B	3.58 (4.08)	B	3.58 (4.10)	
	協働的な学校運営が図られたか。	B	3.50 (3.92)	B	3.50 (3.70)	
教職員の資質向上	校内研修等が実施されたか。	B	3.75 (4.75)	B	3.75 (4.70)	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は現在まで6回の校内研修を行っている。内訳は、「勤務規律の保持」「いじめ防止(2回)」「カスハラ対応」「児童生徒の盗撮防止」「個人情報保護」である。 管理職が週末や面談において、勤務規律の保持や法令遵守を呼びかけているのは、効果的である。 教科指導力向上に関しては、個々の教員が意識を高めて取り組んでいかなければならない。 長期休業中に在宅勤務を行う等、「働き方改革」の指針に沿った勤務を行うことができた。
	授業改善等、教科指導向上を図り生徒の指導に還元されたか。	C	3.25 (4.25)	C	3.25 (4.40)	
	勤務規律及び法令遵守意識は高められたか。	B	3.67 (4.67)	B	3.67 (4.70)	
	緊急対応に係る危機管理体制が確立されたか。	B	3.67 (4.67)	B	3.67 (4.60)	
	勤務時間縮減、計画的な休暇取得がなされたか。	B	3.75 (4.75)	B	3.75 (4.80)	
	生徒と向き合う時間ができたか。	B	3.67 (4.42)	B	3.67 (4.50)	
保護者、地域関係機関等との連携	保護者への連絡及び連携は十分なされたか。	B	3.58 (4.00)	B	3.58 (4.11)	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携は、電話連絡や面談等を活用しながら滞りなくできていたと感じる。 済生会との連携は十分に取ることができたが、他の地域関係機関とのつながりはまだまだ不十分である。
	地域の方々への連絡及び連携等は十分なされたか。	B	3.58 (4.00)	B	3.58 (4.11)	
	地域関係機関との連携は十分図られたか。	C	3.42 (4.25)	C	3.42 (4.40)	
施設・設備	施設設備の維持・管理は適切であったか。	D	2.92 (4.42)	C	3.08 (4.40)	<ul style="list-style-type: none"> 定時制に配分される予算が少なく、学習環境の整備を十分に行えていない。 修繕が必要な箇所を指摘したが、迅速に対応いただけなかった。
	多様な学習環境の整備が十分なされたか。	D	2.92 (3.92)	C	3.08 (4.20)	

下段は昨年度の評価です。 ↑ ↑

4 次年度以降の目標設定に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- (1) 今年度の自己評価から得られた意見や改善の方策について、各教職員、各分掌が目標を定め一層の推進を目指す。
- (2) チーム学校として協働体制を確立させ、スピーディーかつ的確で確実な実践に努める。
- (3) 本校定時制課程の取組を、保護者や地域の方々理解いただく工夫に努める。
- (4) 地域に根ざした学校として、保護者や地域との協力・連携を推進し、自己実現のために努力する生徒を育成できる学校を目指す。